

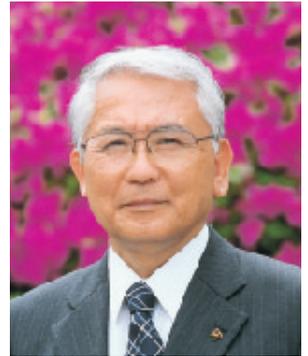
高田短期大学通信

TAKADA JUNIOR COLLEGE

2006年(平成18年)7月7日発行 高田短期大学・編集 図書委員会 第41号

新緑のころ

学長 村澤 忠司



快い春風にのって、新緑の香りが漂う時期、ここ高田短期大学のキャンパスは若人の声で賑やかな日々が続きます。新入生も、入学後の緊張がとれ、新学期の授業も始まり、新しい友も得て意気揚々とした学園生活が始まりました。

さて、本年度から装いを一新して、子ども学科、オフィス情報学科に加えて、人間介護福祉学科の新しい入学生を迎えました。本学は、昭和41年に開学してから、本年5月で41周年目の新しい頁を歩み出しました。これまで、幼児教育者や地域の中小企業に求められるビジネスマンの人材育成の教育研究活動をおこなってきました。しかし、社会は少子高齢化が進行して、福祉社会のインフラストラクチャーの充実が益々求められています。本学の教育の整備充実を進める上で、福祉社会への貢献を念頭に置いた教育研究に取り組むことが、本学の建学の精神からしても、強く求められる所であります。この

度、40周年記念事業として、今までおこなってきた幼児教育者や企業活動を担うビジネスマンの養成に加えて、高齢者の生活や子どもの福祉に目を向けた、気配りのできる優しい気持ちを持った本学卒業生が一人でも多く社会で活躍されることを考えて、平成18年4月から人間介護福祉学科と子ども福祉コースを新設致しました。従来の幼児教育学科は、子ども学科幼児教育コースと名称を変更して、年少の乳幼児から小学校入学前後までの児童の教育によりレベルの高い教授ができる環境を整備致しました。また、新学科の立ち上げにより、人の気持ちが理解できる優しい介護福祉士の養成に合わせて、子どもの福祉にもより目を向けた幼児教育体制を整えることができました。さらに、オフィス情報学科では、企業で即戦力になりうる人材の養成と資格の取得を目的として、内容のよりスキルアップをはかりました。

一方、めまぐるしく変遷する社会で、経済の低成長の厳しい就職環境にもかかわらず、3月に卒業した学生の就職状況は、幼児教育学科では、地域の保育所・幼稚園、福祉施設に、また、オフィス情報学科では地元の中小企業や医療機関(医療事務)などにほぼ100%の就職をすることができました。これからも、社会に求められる人材の教育に合わせ、学生自身が求める仕事を開拓していかなくてはなりません。

教職員と学生が力を合わせて学苑

学生自治会

今年も執行部は12人でスタートしました。

私たちは毎週、各アドバイザーのリーダーたちと一緒に、学校生活をよりよくするため、一人ひとりが意見を出し合い会議を行っています。

私たちの執行部としての活動は、TJC祭(運動会)から始まり、一番大きなイベントである高短祭に向けて、少しずつ準備し始めています。これから、大変な事もきつとあると思いますが、12人力を合わせて日々頑張っていきます。

ここで、私たち執行部が活動している内容を紹介します。

- ① 学生自治会の年間業務の企画・予算
- ② 「高短祭」の計画・実施
- ③ 卒業アルバム編集
- ④ 謝恩会の企画・実施
- ⑤ クラブ部長会議・学生大会・自治委員会の開催
- ⑥ 「セーフティたかだ」での地域の安全活動

の一層の充実に向けて努力をさせていただきます。本学へ通ずる「親鸞坂」の木々の若葉も精一杯に枝を伸ばして、新しい友の登校を歓迎しています。若い皆さんがキャンパスの中で、勉強・スポーツ・社会活動等にエネルギーギッシュに取り組まれることを願っています。

⑦ TJC祭の企画・実施
などです。

学生生活の中の一大イベントの「高短祭」は今年で41回を迎えることとなりました。すでに10月28日(土)・29日(日)に開催が決まっており、模擬店・展示、様々なイベント、各クラブ活動、同好会の催し物、昨年も大いに盛り上がったビンゴ大会などを考えています。また、学生のみなさんが

「高短祭」を楽しめるよう、企画に対するアンケートを実施したいと考えています。企画に対する要望、模擬店・展示・イベントなどに関する質問等、ぜひ「高短祭」でやってみたいと思うこと、なんでもいいのでみなさんのご意見をお待ちしています。そして、全員が協力して「高短祭」を盛り上げていきましょう！各クラブ、同好会のみなさんもよろしくお願います。当日は、先生方も含め全員参加で、地域のみなさんとも一緒に楽しみましょう。



平成18年度 学生自治会メンバー

子ども 学科コーナー

子ども学科のさらなる 発展を願って



学科長

二宅 啓子

本年4月から、旧幼児教育学科は「子ども学科」に名称変更し、「幼児教育コース」と「子ども福祉コース」の新体制で新たなスタートをきりました。それに伴い、定員も100名から150名に増員されました。

新入生たちは、それぞれのコースで幼児教育者・保育者への道を歩み始め、毎日、将来の希望を胸に通称「親鸞坂」を元気に登ってきます。高田短期大学の家庭的で、温かみのある学風と教職員の教育に対する熱意に、学科長という重責を思うと、改めてありがたいと思う日々です。とは申せ、短期大学を取り巻く社会環境は、益々厳しくなってきました。特に、少子化に伴う受験者数の減少と2年間という限られた期間で社会的ニーズに応じた人材を育成することは緊急の課題となっております。現在、子ども学科では、これに対応するために、地域から求められ愛される短期大学であるこ

とをめざして、様々な取り組みを行っております。とりわけ、学生教育の面では、本学の教育理念でもある「豊かな人間性に基づく思いやりの心」を持った保育者を養成することを目標に掲げ、「地域に根付く実践型短期大学教育」を推進することを教育プロジェクトのテーマとし、『夢と笑いのある学びの場』を実現する「教育ヴァージョンアップ構想図」に従って教育課程を編成しています。ここでは、教育の機会と質を保障し、教員一同によって充実した教育実践を行うのみならず、地域・保育現場との連携推進も図っております。

具体的には、平成18年度、子ども学科では、実習を通じた実践での学びを活かしながら各科目を関連させ総合的に教育を推進する教育体制の充実と保育の実際即して各科目を連携させ統合化していくことをめざしております。前者については、複数の実習担当者による実習担当者会議を組織し、その上で学科教員が一丸となって効果的な実習指導を行うことが出来る体制を構築しております。また、後者については、カリキュラムに「保育基礎ゼミ」（1年生）と「ボランティア精神」（2年生）を位置づけていることに象徴されますように、子どもの育ちを

支えるとの視点から保育者の援助内容を総合的に見詰め直す機会を学生に提供しております。これら一連の教育目標とそれを具現化するための教育体制をより一層充実させるために、現在、

①優れた教師陣の確保と養成、
②充実した教育体制、③研究体制の充実、④学生支援の充実、そして、⑤在学生の保護者および卒業生からの連携と協力を重点課題としております。

申すまでもなく、現代社会で求められ活躍できる人材を輩出するためには、従来からの教育内容・教育体制を絶えず点検・検証し、改善に向けての弛まぬ努力をしていかなければなりません。しかしながら、より一層の子ども学科発展のためには、短期大学の努力とともに卒業生方々からのご意見・ご助言が大きな力となります。今後とも、何卒、子ども学科へのご理解とご協力の程をお願い申し上げます。

*本年も地域貢献事業として、子ども学科主催の「高田短期大学保育セミナー第3回」を8月27日（日）に開催します。内容は「保育者に求められる力ウンセリングマインド・乳幼児の事故予防と実践」を計画中です。リカレント教育の一環として企画しておりますので、ふるってご参加ください。

研究余滴

助産師の視点を持ち 保育の研究に取り組み

梶 美保

現在、親や地域の育児力の低下が指摘されている。厚生労働省の調査では「育児不安」や「育児がづらい」というような育児状況が明らかにされ、多様な子育て支援施策が実施に移されつつある。改正保育所保育指針（平成12年）においても、保育士の役割が「子どもの保育」から「親に対する保育指導」を含むものへと軸足が移されてきている。

私は、大学での授業の他に、大学内共同研究施設である育児文化研究センターの活動の一環として、地域の子育て支援（0・1歳児）にも関わっている。また、社会活動として地域の子育てグループや助産師の仲間と協同してさまざまな子育て支援活動に関わっている。そこで実際に子どもを育てている親と接する中でも、育児に対する知識や考え方、またその姿勢から自信のない状況を窺うことができ、育児力の低下を実感している。

このような育児力の低下は、戦後お産の場が施設へと移行したこと、子育てに関する価値観の変化、核家族化等による育児に関する伝承の低下等いくつかの複合的な原因があると考えられる。戦前までの「お産」「産後」「地域の育児」の連続性が切れてしまっていることに一つの原因があるのでは

ないか。育児支援のパイプがつながっていない、細切れ状態になってしまっているのではないか。以前（戦前）の乳幼児の教育は、誰がどのように担ってきたのであろうか。産前・産後・乳幼児の教育について究明することは、現在の育児力回復に対する有効な施策を考えるための一つの根拠資料となり得る、と考える。これについては、この先数年をかけて研究課題として取り組んでいく予定だ。

最近の傾向として、医療・衛生面が完備している施設でのお産から、助産師が関わる在宅お産への回帰が見られる。それはなぜであろうか。この疑問を解決する一つの途が産婆の役割の解明にある、と考えている。

昨年（平成17）の幼児教育学科年報第11号には、研究レポート「主体的な子育てを支援する助産師の取り組み―自宅出産・家族出産の事例から―」として、全国にもれず施設分娩が多数を占める三重県で、自宅出産や助産院で自らのお産を選択し家族でお産をしている夫婦・家族の事例から考察した。子育て支援のひとつの方策として「自宅出産」「家族出産」の可能性を考察する自ら選択した産婦・家族の満足なお産体験が子育てのよいスタートとなり、子育てに対するよい夫婦関係を築く大きな役割を果たしていると考えられる。今後も、妊娠・出産を中心としたリプロダクティブヘルスに関わる助産師の視点と乳児保育の立場からの視点を双方持つオリジナリティのある研究を進めていきたいと考えている。

オフィス情報学科 コーナー



学科長
鷲尾 敦

オフィス情報学科は、地域の有用な人材育成を目的とする学科です。卒業時には専攻を「ビジネス実務学」とする「短期大学士」の学位を得ることが出来ます。教養、外国語、オフィス、情報分野の科目がベースとなっており、基本的なビジネス実務能力を身につけることが出来ます。秘書簿記、情報、医療事務という特定領域の中から、目標とする進路や資格に応じて科目を履修し、さらに実力を深められます。

オフィス情報学科は、平成18年度より定員を60名とし、個々の学生の進路希望に対応できる少人数教育をさらに進めることが可能となりました。単に知識や技能を教えるというのではなく、学生の「キャリア」を「アップグレード」するために学生にどう支援できるかという視点でキャリア支援教育を進めています。以下にオフィス情報学科の取り組みを紹介いたします。

1 3つのS

オフィス情報学科では、教員と学生が「3つのS」を念頭におきながら教育活動や学習活動を進めています。

・Smile (笑顔) — キラキラと輝く笑顔を育てます
・Skill (技能) — 学生の技能と資格をサポートします
・Sincerity (誠実) — 誠実な学生を育てます

学生がこの「3つのS」を身につけ、信頼される社会人として活躍して欲しいと願っています。

また、学科の教員も教育活動や学生指導においては、誠実に笑顔で学生に接し、常に教育力を向上させて指導にあたる努力をしています。

2 就職基礎能力開発支援

オフィス情報学科は、「若年者就職基礎能力支援事業 (YESプログラム)」の応用レベルの教育施設として厚生労働省より認定を受けました。18年度入学生より5つの分野(「コミュニケーション能力」「職業人意識」「基礎学力(読み書き)」「基礎学力(計算・計数・数学的思考)」「基礎学力(社会人常識)」「ビジネスマナー」)の就職基礎能力を開発するための講座を開きます。これらの講座を履修し、情報、経理、語学関連の資格をあわせて取得することで厚生労働省より「若年者就職基礎能力証明書」を受け取ることが出来ます。

3 上級情報処理士

従来から基本的な単位を修得することで「ビジネス実務士」や「情報処理士」の称号を得ることができましたが、18年度入学生からは、情報の専門科目をより深く学んだ学生に対し「上級情報処理士」の称号を与えられるようになりました。

単位だけでなく実力をつけるために習熟度別クラス、TAの配置など、充実した授業推進体制を整えています。

4 スキルアワード

学生の学習意欲を高めながら着実に学習成果をあげることを行ってきた教育プロジェクト(キャリアアップグレード)を展開しています。実務科目において達成(目標)スキルを詳細に設定し、学生が達成スキルに従って学習成果を自己評価させます。自分の学習状況を明確に理解することで、学習の充実感と達成感そして次の学習への意欲を引き出す効果をねらっています。

教員は、学生の目標達成を支援するという視点で授業を見直し、達成スキルを詳細に設定します。明示された達成スキルは、学生に対する授業の品質保証といえるでしょう。

また、資格取得を学生に奨励しており、資格を取得した学生を表彰する制度(スキルアワード)を設け、学生の充実感、達成感、満足感を高め、さらに次の目標に進むための意欲を引きだそうとしています。



平成17年度後期スキルアワード表彰者

研究余滴 虚学を礎とした 実学の研究

平田 祐子

現在の研究テーマは「コミュニケーション」であるが、そこに至るまでの研究経歴と現在の関わりについて紹介したい。

大学では英米文学科で「エミリー・ディキンソンの孤独な生涯と作品」について学んでいた。中学・高校時代から英語の弁論大会に出たり特別な英語教育を受けていたが、読書も大好きで日本の純文学作品をすべて読破しようと思っていた。中学・高校時代できなかったので、学士入学をして日本文学を学び直し、大学院では「中世から近世の女訓書」の研究をしていた。鎌倉時代から江戸時代の原書にあたって文献を読まなければならなかったので書庫に籠もることが多く、何ともいえない古本の香りも愛し、ひたすら翻刻(くずし字を解説すること)に勤しんでいた。

当時、よく考えたことは、「虚学」とは何かについてである。

世間では、文学は「虚学」だと思われている。「虚学」とは最も非実用的なもので役に立たないもの。文学研究こそ「虚学」の最たるものではないのか、何のために研究しているのか、と何度も疑問を抱いたことがあった。しかし、「虚学」こそ人生にとって最も大切なものではないかという思いも打ち消すことはでき

なかった。現代という不透明な時代を生きていると、「自分にとって一番大切なものは何なのか」「自分がなぜ生きているのか」「どのように生きるべきなのか」を考えるようになってくる。文学作品には最も深く人間の生きる姿が描かれており、文化を反映している過去の時代の思想や人々の考え方、恋愛も結婚も就職もすべてその中に含まれている。「人生とは人間とは何か」を読みとり考えることのできる「虚学」を学ぶ最終の目的はそこにあるのであろう。

さて、現代は実利的社会であり、大学や研究機関も、すぐに役立つ「実学」を求めるとの傾向にある。世の中に役立つ研究を求めている時代、まさに「実学」の時代である。しかし、その実学を克服するためには、「人生とは人間とは何か」という「虚学」の部分をしっかり把握していなければならぬ。筆者の研究の場合、日常生活に即した具体的・実地的な学習を中心としたコミュニケーションの方法やテクニックだけの実学的な研究をするだけでは解明できないものがたくさんある。「虚学」で学んだ歴史的背景や思想、文学で表現されている人々の考え方という日本の文化や日本人の特質を考慮することなくしては、様々な場面で展開されるコミュニケーションを論じることができない。

かつての文献研究の積み重ねとはいささか研究方法は変化してきているが、かつて学んだ「虚学」もベラスとしながら「実学」の研究を研磨していく所存である。

人間介護福祉 学科コーナー

人間介護福祉学科が スタートしました



学科長
千草 篤磨

高田短期大学に第3の学科として、本年4月に人間介護福祉学科がスタートしました。本学科は、国家資格である介護福祉士の養成を主な目的として設置されたものです。約1年半の準備期間を経て、昨年12月に文部科学省及び厚生労働省の認可（内定）を得ました。1月によりやく入学試験を実施することができ、限られた条件の中で第1期生として15名の新生を迎えることができました。また、専任教員は学内外から集まった8名のスタッフで構成されています。したがって、教員一人当たりの学生数を考えると、初年度は大変贅沢な教育体制であると言えます。

また、介護実習のための学内施設としては、体育館の1階部分の一部改修して、介護実習施設を設けました。介護実習施設には、最新型の特殊浴槽などを備えた入浴実習室と、ベッド及び畳の和室からなる介護実習室と教員の研究室があります。4

月中旬には、早速介護実習室のベッドを使って初めての授業を行いました。みんな初めての体験で緊張しつつも、和やかな雰囲気です。一部新聞でも報道されました。

さて、日本の高齢化はこの30年間に急速に進行してきました。1970年における高齢化率は7.1%でしたが、2000年には17.2%にまで上昇しました。一方、三重県においては、2000年の高齢化率が18.9%、2003年が20.5%と、全国平均よりも速い速度で高齢化が進んでいます。このような情勢の中で、福祉施設で働く介護職はまだ人数が不足しており、有能な介護福祉士の養成に期待が集まっているところでは、また、厚生労働省は特別養護老人ホーム等介護現場で働くための資格要件を介護福祉士に一本化する方針を示しています。これらのことから、介護福祉士養成への期待が更に高まってきているところです。

そこで、本学科では高齢者や障害児・者の介護をより質の高いものにしていくために、地域の福祉施設などとの連携や共同研究を積極的に進めて行くことにしています。特に本学苑と同系列の高田福祉事業協会とは密接な協力体制をとっていくこと

となつていきます。また、身体介護のみならず、精神面での心のケアを重視し、本学の建学の精神である仏教精神に基づき、「思いやりの心と豊かな人間性」を育てていくことを教育研究上の理念として掲げ、質の高い介護福祉士の養成に当たつていくことにしています。そのために、介護福祉士資格を核として、社会福祉主事任用資格、福祉レクリエーション・ワーカー資格、ピアヘルパー資格などの資格取得が可能なカリキュラムとなっています。

以上、学科が始まったばかりで、現時点ではこのコーナーで紹介できることはほとんどありませんが、高田短期大学のホームページでは逐次本学科の活動を掲載していきますので、是非ご覧ください。



「子どもひろば」の様子

仏教文化 研究センター

センター長代理 栗原廣海

センターの地域貢献・連携を目指し、本年度の仏教文化研究センター公開講座を次のように開講します。学生の皆さん教職員の方々もごぞつて聴講してください。

- 【第1回】
日時 6月24日(土) 10時~12時
講師 仏教文化研究センター客員研究員 山田 雅教
講題 「浄土真宗のお勤めの歴史とそのこと」
- 【第2回】
日時 7月29日(土) 10時~12時
講師 高田中・高等学校教諭 梅林 久高

講題 「仏教歩いて再発見!!」
連(はす)と日本人」

【第3回】
日時 9月9日(土)
午後1時30分~3時30分
講師 真宗高田派本山専修寺絵所 絵所頭 安川 如風

講題 「仏教における絵と絵師の役割」
また、センターの事業の一つである「仏教文化等に関する研究・調査とその成果の発表」として、本年は『顕正流義鈔蒙引』を刊行する予定です。この書物は、高田中興の祖真慧上人が著された『顕正流義鈔』を、江戸時代の学者である真淳が講義した講義録で、その自筆本をセンターが所蔵しています。わかりにくい文字も解読してすべてをコンピュータ画面上にそのまま再現し、PDF化したものを印刷・製本して刊行することになります。ご期待ください。

育児文化 研究センター

センター長 豊田和子

この「育児文化研究センター」が開設されて、1年半が経過いたしました。この間、関係者の皆様には、大きなお力添えを賜りましたことに対して感謝申し上げます。

おかげさまで、17年度は、親子支援活動、保育者や教育者のための講座、大学の施設を開放した子どもと保護者向けイベント、出前講座等、さまざまな分野での事業を実施することができ、ようやく地域に根付き始めたかなという感触を抱いております。特筆事項を挙げてみます。

(一)「子どもひろば」の連続実施
これは0・1・2歳親子対象の子育て支援事業ですが、6月から12月にかけて6回実施し、毎回申し込みが多くて盛況でした。小さい子どもを抱えている保護

者たちのニーズが高いことを示しています。

(二)出前講座
県内各地の幼稚園・保育所・子育て支援関係機関等からの要請があり、総計48の講座を実施しました。

(三)定例研究会
児童虐待問題、子育て支援、幼児文学、音楽教育などのテーマで年間7回開催しました。毎回、真摯なレポートと熱心な討議で、このセンターの研究推進的役割を果たしています。

(四)紀要「育児文化研究」創刊号の発行
創刊号には五編のレポートを掲載し、まずまずの内容になったと思います。

(五)ICBUNZIMSの刊行
2号と3号を刊行できました。

その他に、三重県の「ささえあいくらぶモデル事業」に参加し、「久居っ子フエスタ」を行い約40名の参加があり大変にぎわいました。

今後、ますます地域の人に活用されるセンターでありたいと願っています。

着任のみなさん



健やかな

毎日のために

望木 郁代

4月から赴任して参りました望木と申します。研究室の窓から見える桜は本当にきれいに咲いています。私は「健やか」ということが大好きです。桜が咲き、緑の多い豊かな環境の中で、学生の皆さんが健やかな日々を過ごされていますようお手伝いをしたいと思います。よろしくお願ひいたします。



効果的な実習の

実現に向けて

市田 敏之

4月1日付けで子ども学科に着任し、主に実習関連科目を担当させていただいております。

学生にとり実習とは、授業で学んだ知識や理論を現場での体験より深く、同時に後の授業へと還元するものであると考えております。また、自身の保育者としての適性を判断し、不足部分を認識し向上するきっかけを提供する役割も担っていると思われまふ。

実習に期待されるかかる目的と機能を効果的に実現するため、全力で職務に取り組んで参りますので、よろしくお願ひいたします。



生活を

大切に生きて

鷲見 裕子

今春より新学科の人間介護福祉学科に着任し、家政学関連科目と子ども学科の小児栄養を担当いたします。

衣食住の営みや、子供を産み育て、他者と助け合う生活は、すべての人間にとって活動の基礎です。でもあたりまえすぎてそれは意識されないことが多いのではないのでしょうか。知識や技術の学習とともに、各自が生活を見通し、問題意識をもつことが、現在と将来をよりよく生きるための第一歩ととらえ、学生諸氏とともに生活を考えたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。



学びから実践へ

山田 亮一

人間介護福祉学科の開設によって大阪の社会福祉士養成校から転任してきました。社会福祉関連科目（社会保障、社会福祉、地域福祉）を担当しています。桜、ツツジと四季の変化を楽しめるすばらしい環境と福祉教育に対して情熱あふれる先生方、さらに次代を担う明るく・元気な学生たちに囲まれた高田短期大学でその重責と遣り甲斐を感じ、教育・研究活動に邁進しています。社会福祉を取り巻く状況も大きく変化しており、学校での学びが実践へと結びつくような福祉教育を展開したいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。



新しいづくしの

中で

森 和子

私は人間介護福祉学科が開設されるにあたり、新学科に着任させていただきました。今まで「看護師」として、看護教育現場と医療現場で活動して来ました。

そこで、身に付けた知識と経験を生かして、新たな分野である職場で、学生の皆さんと共に「人間」理解と「社会福祉」を考えてみたいと思ひます。また、専門的な判断のできる介護福祉士になつていただけたよう学生の皆さんをサポートしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



力あわせて

長岡 さとみ

今春より人間介護福祉学科の新設に伴い、主に介護技術担当として着任させていただきます。

3月まで医療現場にいた私にとって、違う環境でのスタートであり、教育・研究をはじめ、何もかも勉強だと心しております。皆さまと「思いやりの心」と豊かな人間性の育成「めざし、力あわせていけるよう努めていきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



新たな気持ちで

北角 しのぶ

昨年度まで進路課にてお世話になっておりましたが、本年度実習助手として着任させていただくことになりました。今までの知識や経験を生かし、学



退任のみなさん



多くの学びを

ありがとう

田口 鉄久

高田短期大学が大きく変わろうとする時、わずか2年で退職させていただくことになりました。最後まで温かく見守りご指導いただいた教職員の皆様に感謝致します。先生方のチームワークの良さと学生の皆さんの熱心さ、それに事務体制の堅実さに支えられて教育・保育実習担当教員としての責務をなんとか果たすことができました。幼稚園・保育所・児童福祉施設の先生方にもご協力をいただき、ありがとうございました。



スローライフで

ほちほちと

石井 啓子

今年3月をもって、高田短期大学を退職いたしました。在職中は、教職員の皆様が大変お世話になりました。在職8年間で皆様に賜りましたご高配に



退任にあたって

服部 進

は深く感謝いたしますとともに、たくさんの方の学生さんと過ごさせていたいただいた思い出を胸に、新たな人生を歩んでいきたいと思ひます。「ほちほち」は大変めで、ゆつくりあせらず少しずつ前に進むという意味です。毎日をゆつくり楽しみながら、前に進んでいこうと思ひます。

平成12年から6年間、この間学生関係のほか幾つかのポストを経験させて頂き、特に、学生自治会役員の皆さんと大学祭（平成13年「高短祭」）を始め諸学校行事等を楽しくやらせて頂きました。「セーフティ たかだ」の結成（平成15年）、高短祭関係の大道具類等の製作、合宿などのほか、新入生オリエンテーションから謝恩会、学生駐車場の諸整備・・・。

皆さんのご活躍と新学科「人間介護福祉学科」を始め高田短大の益々の発展を願っております。

平成18年度 新入生宿泊研修

学務委員長 千草 篤磨

4月27日(木)～28日(金)の2日間、今年も白山ヴィレッジゴルフ倶楽部で新入生宿泊研修が実施されました。

今年度は人間介護福祉学科がスタートし、開会式の学長講話の後、3学科に分かれての研修となりました。当初は天候が懸念されましたが、徐々に回復して学科共通のバターゴルフも楽しめました。また、夜はコテージで学生同士の親睦も十分深めたようでした。研修を終えた学生は、これから2年間の学生生活への希望を新たにしていきました。学科別の研修内容は以下の通りです。



子ども学科では、1日目は幼児教育コース、子ども福祉コースに分かれて研修を行いました。それぞれ子どもが喜んで遊ぶ楽しい歌あそびや

コミュニケーション遊びを行い、それを通して学生間の交流を深めるとともに保育者を目指すものとしての意識を高めました。2日目の研修は毎年恒例となっている「つくって・あそんで・みせて2006」でした。限られた時間でダンス創作とダンスの衣装製作をして発表をするというのですが、今年もノリにのったダンスとアイデア満載の衣装、そしてかわいい衣装をつけた教員の参加もあり、発表会は大いに盛り上がりました。

オフィス情報学科では、鷲尾先生の「ストレッチ体操」で身体をほぐすスタート。畠山先生の「大学生になること」では、過去を振り返り自史の作成。先生方の過去の秘密も知ることができました。午後は、グループで知恵を出し合う「漢字ビンゴゲーム」で盛り上がりました。倉田先生の「自己診断テスト」では、現在の自分を知り適職を探りました。中野先生の「自分を売り込もう」では、未来の自分の活躍をイメージし、自己PRのポスターを各人が描きました。一日を通して、就職活動の第一歩である自己分析を楽しみながら行うことができました。

人間介護福祉学科では、まず、武川先生による「わたしからはじまるパリアフリー」という学習ゲームを行いました。学生も教員も仲間として、「家族の条件」などイメージしたものを書き出し話し合った結果、改めて家族や人の考え方の違いを感じたという声もあり、意見交流の場となりました。また、織田先生の「ゲ

ームを通した仲間作り」では、歌と振り付けと笑いの後、視覚障害者と老人の疑似体験を通じ、介護を受ける人々の思いを感じ取ることができました。



オーストラリア海外英語 研修に参加して

オフィス情報学科2年

前葉 千穂・村田 みつほ

この海外英語研修は、私達の中で一生残る経験になりました。この研修に参加した理由は、日本と他国の文化や習慣の違いを自分の目で見て体験したかったからです。

私達はオーストラリアに行つて、自分が日本の事をあまり知らなかった事に気が付きました。日本の事をたくさん質問され、答えられないことが多く、とても恥ずかしい思いをしました。もつと日本の事を勉強し

ておけばよかったと思いました。外国の習慣を知る事は逆に日本の習慣も知る事になり、いい勉強になったと思います。そして、オーストラリアの人は車の中でもバスの中でもりんごをかじっていました。マスカットの皮を剥いて食べていた時もびっくりされて笑われました。果物だけでもこんなにも文化の違いがあることがわかりました。毎日本当にたくさん色々な発見があり、何もかもが新鮮で面白かったです。

言葉に関しては、一番苦労しました。聞き取れて理解ができて、自分の意見が上手く伝えられずジェスチャーをつけて喋る事が精一杯でした。勉強をしてもまだまだ甘いなど改めて感じました。しかし、好き嫌いがはっきり言える国で、リアクションが大きいので私達の性格に合っているのか、溶け込みやすかったです。全く違う土地ですごく不安もあつたけど、ホストファミリーの方々に気にかけて優しくしてくれました。私達のつたない英語も聞き取ってくれるので次第になくなっていきました。

オーストラリアは大自然でのびのびとした素敵な国でした。この12日間は、直にオーストラリアの生活を体験して、自然や動物達にも触れて楽しく過ごすことができました。そして、少し自分に自信がつき成長をしたと感じました。

私達はこれから、この体験を活かして、もつとほかの国にも行って色々な発見をすると共に、日本の事も勉強していきたいです。

追悼

釋舎先生を偲んで

人間介護福祉学科 武川 眞固



今年の初めに、釋舎幸紀先生の突然の訃報に接しました。

先生は、教養科が設置された昭和59年4月に本学に着任され、17年間学科の発展のために尽力されました。先生は、平成6年4月教養学科長として、2年間務められ、学科の学生指導に当たつてこられました。平成11年に大病を患われ、一時休職された後、平成13年3月で退職されました。

先生のお人柄は、温和で、学生には優しく、かつ厳しい指導をされていたように思います。非常に特徴のある声で講義をされ、学生には慕われておられたので、本当に残念でした。

窪田先生を偲んで

オフィス情報学科 鷲尾 敦



昨年の9月2日、オフィス情報学科の窪田達先生が急逝されました。前日はご病気を

おしで学生一人ひとりに成績表を渡しておられ、学生に対する思いやりと責任感を感じずにはいられません。「いつも明るくマイペースで、学生にとっても人気があり、パンから鉄塔まで何でも器用に作り、会議では歯切りの良い意見を言い、気軽に相談のつてくれて、・・・」ご家族と先生のいない研究室を片づけながら、心の隅にいた穴を互いに埋めるように思い出話に花を咲かせました。

卒業生からのメッセージ

①勤務先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

出会いを大切に

平成16年卒 中村 真也



①津市立中央保育所 ②ハイハイしかできない子どもが自分の所まで必死に歩いてこようとしたら、言葉のまだ出ていない子どもが必死に何かを言おうとしたりなど、彼らの成長や生きている力を間近で感じることができた時は、保育士という職業を選んだことがよかったと感じます。辛かったことは、職場の中で男性が私だけということ以外には特にありません。

③保育士という職業を続けながら、幸せな家庭を築いていくことが私の夢です。

④保育士資格、幼稚園教諭二種免許の二つの資格取得を目指すため、短大生活は思っく暇もない日々が続きました。しかしその中で保育士になるという目標に向かって、最高の恩師、最高の友人たちと出会い、共に過ごすことができた2年間は、まさに充実した日々でした。

⑤大学では授業や、実習、テストなどで毎日がとても忙しく、大変なことも多々あるかと思いますが、保育士に限らず社会人になればそれ以上に忙しい日々が待っています。学生時代にはかきたくないことを、多くの人たちの関わりの中で経験し、そして学び、その人たちの出会いを大切に、学生生活を有意義なものにしてください。

私は人生において無駄な経験というものもなく、全ての経験がこれからの人生の糧になつていくと考えています。これから様々な人と出会い、仕事をたていく過程の中で、時には「これが何の役にたつんだ」と思うこともしばしばあると思います。それでもまずやってみてください。いつかそれを活かせる機会が必ず訪れると思います。

以上、サラリーマンから高田短期大学生を経て、保育士に転職した者より。

今改めて思うこと

昭和46年卒 鈴木 泰子

現在、松阪市立三雲南幼稚園に勤務しております。自分の人生の約半分を幼児教育に生きてきたかと思うと、よく勤めたものだ改めて思います。

この間辞めたいと思うことが何度ありましたが、その時に支えられたのは園の子どもの成長と笑顔、そして家族の支援でした。3年前に入園した子ども達が立派に卒園式を迎える姿を見るのは最高の喜びです。反対に保護者の方と園の思いにズレが生じて関係がうまくいかなかった時は、さすがに辛いです。大勢の保護者に全て満足してもらえない事は不可能ですが、いつか解つてもらえるという思いで頑張っています。随分昔、通った短大、今は恩師もみえないと思いますが、いろいろな事を学ばせてもらった2年間で、

幼児教育を目指して頑張つてみえる皆さん、知識と同時に現場ですぐ使える技術は大きな財産です。しっかりと身につけてください。

平成14年卒 藤林 英理

①株式会社 三重電子計算センター
②私は、商品の調達などを担当部署に所属しています。最初のうちは慣れるまで、要領よく仕事をこなすことが出来ず、夜遅く帰る日もありましたが、入社5年目では自分も会社組織の中で少しも役に立っていることを実感できると嬉しく思います。今の仕事がハードに感じる時もありますが、仲の良い同期や頼もしい先輩、頼りになる上司にも恵まれ、とてもやりがいのある職場です。辛かったことは、後輩に仕事を教えるという事です。初めは自分が先輩から教わる立場であったのに、後輩ができてからは逆の立場になりました。人に教えるという事の難しさを実感しました。

③将来は、今の自分に満足せずスキルアップを目指し、誰からも頼られる存在になりたいと思います。

④教養学科ではマナー・礼儀作法、秘書検定取得へ向けた勉強などを通して社会で必要不可欠な基礎知識を多く教わりました。実際に社会へ出てから経験・実践することばかりだったので、学生時代に教わることでできてとても感謝しています。

また、短大ではイベントの時には思いっきりみんなで楽しむというスタイルだったので、高短祭でゼミの皆で取り組んだ「みたらし団子屋」はとてもいい思い出で今でも印象強くに残っています。

平成18年卒 篠木 麻由

⑤後輩のみなさん、学生時代にしかできないことをたくさん経験しておいてください。資格取得を目指し自分の財産にするもよし、今のうちにたくさん遊ぶのもいいと思います。社会へ出たら様々な試練があるかもしれませんが、強い精神力を持って、いつでも自分の意思を持って立派な社会人になってください。そして何事にも前向きに頑張ってください。

①株式会社 ミニミニ近畿(津新町店)
②営業のすばらしさは多くのお客様に出会えることです。そしてそのお客様に役をたつことを使命としているところです。お客様にご来店いただき、お客様の要望にあった商品を紹介するのですが、お客様が満足するように「ここに決めよう!!」と言われた時が一番嬉しい瞬間です。営業という仕事にはノルマを達成しなければいけないとか、他社の営業に勝たなくてはならないという常に競争状態にあるという難しさもあるのですが、結果がでるからこゝろ一歩しつかりと成長する自分を確認できるすばらしい仕事だと考えています。

辛かったことは、自分が引き起こしたミスは、自分の問題だけでは済まず、上司や先輩の仕事にも影響を及ぼしてしまうこと。場合によっては自分の信用という問題だけでは済まず、会社の信用にかかわる問題にも発展するかもしれないです。それだけに自分が責任をとれば済むという安易な考えは持つてはいけなと思っています。

③お客様1人ひとりのご要望に応じた商品を提供したくさんの方に幸せを与えられる営業マンになりたいです。そしていろいろなかろで中心にいる人物になっていきたいと思います。先輩やお客様から信頼されたいです。「この人であればならぬ」といわれるような人間として周囲から認められたいと思います。

④何でも相談できる友人、信頼できる先生に出会えた最高の場所であると思います。毎日学校で楽しんでいたのも、オーストラリアへホームステイに行く決意ができたのも、高田短大の友人や先生方に出会えたからだと思えます。高田短大は自分自身が成長することの出来る場所であると感じています。

⑤6月に入ると少しづつ周りの子たちが決まり始め、決まっていなかった子は焦り始めます。しかしそんな時こそ焦らないで少し立ち止まって考えてみて下さい。一人で考えるより多く解決策が得られるはず。

大変だと思えますが就職活動頑張ってくださいね☆

公告 平成17年度における学校法人高田学苑の決算は次のとおりですので、当学苑寄附行為第40条の規定に基づき公告いたします。

貸借対照表 (平成18年3月31日)

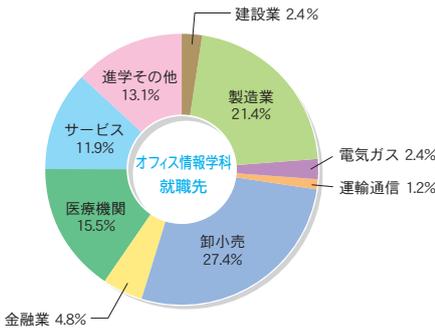
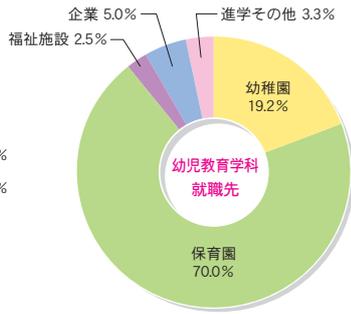
(単位:円)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(7,448,453,958)	(7,293,276,849)	(155,177,109)	固定負債	(246,585,876)	(248,761,195)	(△) 2,175,319
有形固定資産	(5,023,918,963)	(4,097,206,317)	(926,712,646)	退職給付引当金	246,585,876	248,761,195	△ 2,175,319
土地	310,500,677	310,500,677	0	流動負債	(706,862,910)	(458,144,852)	(248,718,058)
建物	4,256,558,987	3,313,893,954	942,665,033	未払金	374,115,854	127,845,572	246,270,282
構築物	98,051,536	119,257,115	△ 21,205,579	前受金	255,310,135	253,376,135	1,934,000
教育研究用機器備品	125,169,795	124,644,858	524,937	預り金	23,658,417	24,476,709	△ 818,292
その他の機器備品	6,226,225	8,098,684	△ 1,872,459	修学旅行費預り金	50,256,504	48,708,436	1,548,068
図書	197,492,265	189,722,321	7,769,944	卒業諸費預り金	3,522,000	3,738,000	△ 216,000
車輛	0	1,169,230	△ 1,169,230	負債の部合計	(953,448,786)	(706,906,047)	(246,542,739)
学苑林	29,919,478	29,919,478	0	基本金の部			
その他の固定資産	(2,424,534,995)	(3,196,070,532)	(△) 771,535,537)	科 目	本年度末	前年度末	増 減
借地権	2,257,500	2,257,500	0	第1号 基本金	7,878,961,255	7,012,851,692	866,109,563
電話加入権	1,285,980	1,285,980	0	第2号 基本金	475,000,000	464,000,000	11,000,000
施設利用権	153,623	182,829	△ 29,206	第4号 基本金	150,000,000	150,000,000	0
有価証券	3,838,498	3,838,498	0	基本金の部合計	(8,503,961,255)	(7,626,851,692)	(877,109,563)
差入保証金	350,000	350,000	0	消費収支差額の部			
退職給付引当特定資産	258,490,000	258,490,000	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
施設設備拡充引当特定資産	1,122,877,500	1,904,790,000	△ 781,912,500	翌年度繰越消費支出超過額	△1,179,832,001	△ 400,699,102	△ 779,132,899
長期火災保険特定資産	384,278,180	373,591,070	10,687,110	消費収支差額の部合計	(△1,179,832,001)	(△ 400,699,102)	(△ 779,132,899)
財政調整資金特定資産	650,000,000	650,000,000	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
長期前払金	1,003,714	1,284,655	△ 280,941	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	(8,277,578,040)	(7,933,058,637)	(344,519,403)
流動資産	(829,124,082)	(639,781,788)	(189,342,294)				
現金預金	688,305,621	478,426,669	209,878,952				
未収入金	85,989,677	113,071,796	△ 27,082,119				
仮払金	1,036,120	7,887	1,028,233				
修学旅行費預り資産	50,256,504	45,167,436	5,089,068				
卒業諸費預り資産	3,522,000	3,108,000	414,000				
前払金	14,160	0	14,160				
資産の部合計	(8,277,578,040)	(7,933,058,637)	(344,519,403)				

就職先一覧

幼児教育学科 就職先

- ◆**幼稚園(公立)**
松阪市立伊勢寺幼稚園、松阪市立松尾幼稚園
- ◆**幼稚園(私立)**
あおい幼稚園、暁の星幼稚園、エンゼル幼稚園、大川学園幼児舎、江南幼稚園、さくら幼稚園、鈴鹿幼稚園、清泉幼稚園、高田幼稚園、津田学園、津幼稚園、道伯幼稚園、日生学園、ふたば幼稚園、ゆたか幼稚園
- ◆**保育園(公立)**
四日市市立大矢知保育園、川越町立中部保育所、いなべ市立藤原保育園、



- 菰野町立朝上保育園、菰野町立保育所、亀山市立神辺保育園、亀山市立第二愛護園、亀山市立第一愛護園、津市立橋南保育園、津市立こへき保育園、松阪市立白鳩保育園、松阪市立西保育園、松阪市立春日保育園、多気町立保育所、多気町立津田保育園、志摩市立鶴方保育所、豊明市立保育所

- ◆**保育園(私立)**
相賀幼児園、あおい保育園、あかつき保育園、曙保育園、旭ヶ丘保育園、伊賀市社会事業協会、嬉野保育園、大谷台保育園、片田保育園、上浜保育園、かわしま保育園、神戸保育園、岸田保育園、ぐみのき保育園、公園西保育園、光陽保育園、志登茂保育園、庄内あおい鳥保育園、白塚愛児園、竹野のこども園、長寿保育園、つづき保育園、津カトリック保育園、つぼみ保育園、長沢保育園、長太の浦保育園、なないろ保育園、ハートピア保育園、花之木保育園、ひかり保育園、久居保育園、日永保育園、ひので保育園、ひばり保育園、藤水保育園、ほろりん保育園、三重保育園、みそら保育園、みどり保育園、睦保育園、村松保育園、ゆたか保育園、若葉保育園
- ◆**福祉施設**
すずかぜ、すばる児童館、心豊苑
- ◆**進学**
三重大学研修生
- ◆**企業**
コンドウ歯科医院、林歯科医院、イトキン(株)、(株)サンエー・インテーナショナル、(株)マルタ、松阪農業協同組合

オフィス情報学科 就職先

- ◆**建設業**
滋賀特機(株)、水谷建設(株)
- ◆**製造業**
イワキ(株)、シャープビジネスコンピュータソフトウエア(株)、(株)ト

- ピア、日本梱包(株)、富士総業(株)、(株)前田製作所、松阪段ボール工業(株)、松下電工(株)、(株)丸和製作所、柳河精機(株)、ユーバック(株)、ワールド電子(株)
- ◆**電機・ガス・水道業**
イワタニ三重(株)、金子工業(株)
- ◆**運輸業**
(有)相互運輸商事
- ◆**卸小売業**
(株)エース、加藤塗料(株)、ケンコウ薬局、(財)三聖会、資生堂(株)、シンリョウ特機(株)、(株)スギ薬局、(株)第一ホンダ、ダイヤ燃焼(株)、タナカ包装(株)、中部日産ディーゼル(株)、(株)津松菱、トヨタカローラ三重(株)、(有)松阪米穀、(株)マツオカ、三重トヨタ自動車(株)、三重リコヒー販売(株)、ミニミニ近畿(株)、(株)ミヤマラ、山一商事(株)、ランセン、(株)リョウシン
- ◆**金融・保険業**
(株)第三銀行、百五スタッフサービス(株)

- ◆**医療、福祉**
イタニクリニック、いたみ眼科、江見眼科、大原眼科、東海眼科、フナダ外科内科クリニック、丸岡医院、山中デンタルクリニック、山本整形外科病院、シーアールメディカル、(株)メディカル一光、豊寿園、日本ケアシステム(株)
- ◆**教育、学習支援業**
大川学園
- ◆**複合サービス業**
津安芸農業協同組合、多気農業協同組合、松阪農業協同組合、三重県漁業協同組合連合会
- ◆**サービス業**
洞津会館、(有)コンティニュー、モーターランド、尾崎斉税理士事務所
- ◆**四大等、編入**
愛知学院大学、愛知大学、愛知文教大学、三重大学研修生、大阪経済法科大学、高田短期大学、ニチイ学館

同窓会の近況

北端 一子

♪セツセイセイのヨイヨイヨイお寺の和尚さんが、かぼちゃの種を蒔きました・♪と年長児と手遊びを始めるのと、一歳児の女児がいつもそばに寄ってきて座ります。そして♪芽が出て膨らんで、花が咲いたらジャンケンポン♪のところだけ真似をするのです。ジャンケンには、いつもグーを出してパンザイをし、パチパチと手をたたきます。とてもうれしそうに。先生や友達同士でしている年長児の手遊びを見て覚えたのでしよう。真似するところだけを歌っても駄目、初めから歌わないと出来ないのです。また、手を持って教えるでも気に入らないらしく手を払いまです。歌の流れの中で参加することが楽しいのでしょうか。保育園生活の中でこのひとコマですが、小さい子達には、いつも自分より大きい子達の様子を見て覚え、自分でもやってみようと試みる姿と、それを見て、温かく見守る大きい子達の姿が見られます。周りの大人の言葉よりも、子どもた



ちから自然に出た言葉や行動が、大きく影響しているのでしょう。

さて、同窓会活動ですが、定期的に役員会を開き、どうすれば同窓会活動に卒業生たちが参加していた、だけるか考えています。その一つ、高短祭にバザーを始めて今年で十年目を迎えることとなりました。また、新しいことを始めたいと思いますが、なにかいい案があれば教えてください。今年も、高短祭でバザーを行います。多くの収益金が出ますように理事の方・会員の皆様方のご協力をお願いいたします。バザーの収益金が各クラスの同窓会の通信費の一部になりますので、ぜひ高短祭に参加して盛り上げてください。

編集後記

高田短期大学通信第41号が完成しましたので、ご笑覧願います。

社会情勢の変化が急速に進行する中で、高田短期大学もまた絶えず変革を続けています。本号では、高田短期大学の変革の様子を変わることに伝統とともにお示しさせていただきました。

今後とも通信の一層の充実を図って参りたいと思いますので、ご意見・ご感想をお寄せ願います。